



つむぐ

浜松市教育研究会
 研修主任研究部
 研修だより No. 3
 令和6年11月11日

11月6日(水)に、浜松市教育会館にて今年度最後の研修主任研究部研修会が行われました。今年度も、浜松市内小中学校の研修主任の先生方が一堂に会して研修を積み重ねることができました。今年度の研修テーマである「主体的・対話的で深い『教師の学び』」を目指す校内研修の創造に向けて、本研究部一丸となって学びを深めるとてもよい機会となりました。先生方の御協力に心から感謝申し上げます。

さて、第3回の研修では、2校の実践発表とグループ研修が行われました。お忙しい中、発表の御準備をしてくださった松野将拓先生、鈴木恵莉先生、本当にありがとうございました。2校の実践内容や、御手洗実校長先生から御指導していただいたこと、グループ研修の様子をまとめて報告させていただきます。

【実践発表1】

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した授業改善のために ～主体的に学び続ける教師集団～

大平台小 松野 将拓 先生



大平台小学校の松野先生より、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指した授業改善のために」をテーマに実践発表をしていただきました。

【「？」から研究がスタート】

<研究テーマ>

学ぶ喜びを実感し、
 主体的・対話的に学び続ける子の育成
 ～ なんで？そっか！もっと！
 が聞こえる学びを通して ～

- ・学習者主体の学びとは？
- ・個別最適な学びとは？
- ・協働的な学びとは？
- ・具体的にどう進めれば？

「職員全体で一緒に勉強していこう！」

【授業改善に向けた手立て】

- ①全体研修のたびに振り返りを行う
 ・自分の授業を振り返り、授業改善を考える
- ②研究窓口を変え、学習者主体の活動を構想する
 ・教材や手立てのアイデアを出し合う
 ・年度当初に教科の特性を職員全体で共有
 ・育成したい資質・能力をイメージして構想
- ③外部から講師を招く
 ・講演内容を具体的に依頼し、情報をインプット
 ・ICTの基本操作や技術を獲得する機会を作る
- ④研究授業・事後研修のもちかたを変える
 ・「直接的な支援」「環境による支援」「周囲との
 かかわり」の視点で授業参観、事後研修を行う

授業改善に向けた手立てを講じることによって、子どもたちの「課題や状況に応じて必要な学び方を選んで活用する姿」や「友達と協働して考える中で、他者の考えを受け入れ、尊重しながら学び合おうとする姿」が見られるようになったそうです。

大平台小学校の実践 まとめ

- 教師の「個別最適な学び」や「協働的な学び」の在り方への理解が深まった
- 教師主導から、子どもの立場に立った学習者主体へと教師の「授業感」、「子ども感」が変容し、子どもが主体的に学ぶ、複線型・全員参加の授業が行われるようになった
- 黒板の前に立って教えるという教師主導の位置から、ファシリテーターとして、教室の中に入り込んで支援をする伴走者になった
- 主体的に子どもたちが学ぶことで、直接的な指導が増えた
- 自らの変容を自覚することで、さらに授業改善のために学ぼうとする教師の姿が増えた

【実践発表2】
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

～リーディング DX スクール事業の実践より～

北浜中 鈴木 恵莉 先生



北浜中の鈴木先生より「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」をテーマに実践発表をしていただきました。

【研究方法と手立て①】

＜研究方法＞
学習方法や課題に選択肢を作る

＜手立て＞
誰と学ぶか、何で学ぶかななどを自分で選択する
自己課題の設定と振り返りを充実させる

【研究方法と手立て②】

＜研究方法＞
単元計画を明確に示す

＜手立て＞
単元開きの際に「単元を貫く課題」「学習の流れ」「学習課題」「評価基準」などをクラスルームにアップし、生徒が計画的に学習できるようにする

【研究方法と手立て③】

＜研究方法＞
ICT 機器を有効活用し、情報の共有をする

＜手立て＞
進行表を共有し、他者参照できるようにする
友達のスプレッドシートやスライドを見て、疑問について尋ねたり、参考にしたりできるようにする

ICT 機器を用いた実践では、授業内での情報共有の他に、小テストや翻訳機能を使った外国人生徒への対応、授業参観記録、校内研修の資料の共有、研修の振り返り、日報、会議の議事録など、様々な場面でスプレッドシートやチャット、ドキュメントなどを有効に活用していたそうです。さらに、そこで感じた ICT 活用のよさが授業内で生かされることもあったようです。

北浜中学校の実践 まとめ

- 学び方の選択や単元を通して付けたい力の提示、情報の共有ができるようになってきた
- 教師が教材感を深め、その教材を通して、生徒に付けたい力を考えることが必要である
- 教師が、生徒に身に付けたい資質・能力を価値づけし、機を逃さず、適切なタイミングで声掛けや支援をしていくことが求められる
- 幅広い学び方ができるようになり、今まで支援が必要だった生徒が自分自身で頑張る姿や、力のある生徒がさらに力を伸ばそうとする姿が見られるようになった
- ICT を使うことが目的ではなく、必要な場面で効果的に使うことが必要であり、それぞれの場面で使うか使わないかは、生徒も教師も自己選択することが大切である

【顧問校長のお話】

南部中学校 御手洗 実 校長先生



実践発表の中で垣間見える、研修主任として実践をリードする姿、主体的な学びを目指して教師全員が工夫や仕掛けをする姿、教師自身が成長実感を持ち、面白さを感じている姿が印象に残ったというお話をいただきました。主体的・対話的で深い「教師の学び」を目指し、研修主任自らが主体的に学ぶ姿勢を見せ、成長を重ねていくことが大切だと感じました。

【グループ研修】

- ・ 実践発表を受けて
- ・ 次年度の校内研修の見通し



1年間、研修主任研究部に御協力いただきまして、ありがとうございました。来年度も各学校の研修がますます充実されますことを願っています。

(文責 東陽中 渡辺 佳菜)